

建材試験センター会報

VOL.6 No. 8 1970

8

◆ 目 次 ◆

- ・ 所 感..... 3
 使用者の立場から見た J I S 中 邨 嘉 幸
- ・ I. 試 験 報 告.....
 ガラスリブの曲げ強度試験
- ・ II. J I S 原案の紹介.....
 丁番の繰返し開閉試験方法
- ・ III. 試験手数料の一部改訂.....
- ・ IV. 熱伝導率測定用標準板について.....
- ・ V. 業務月例報告.....
 - 1. 昭和45年6月度受託状況
 - 2. 標準化原案作成業務関係
 - 3. 各種会合
- ・ VI. 事務局だより.....
 受託業務消化状況



財団法人 建 材 試 験 セ ン タ ー

本 部 104

東京都中央区銀座六丁目15の1

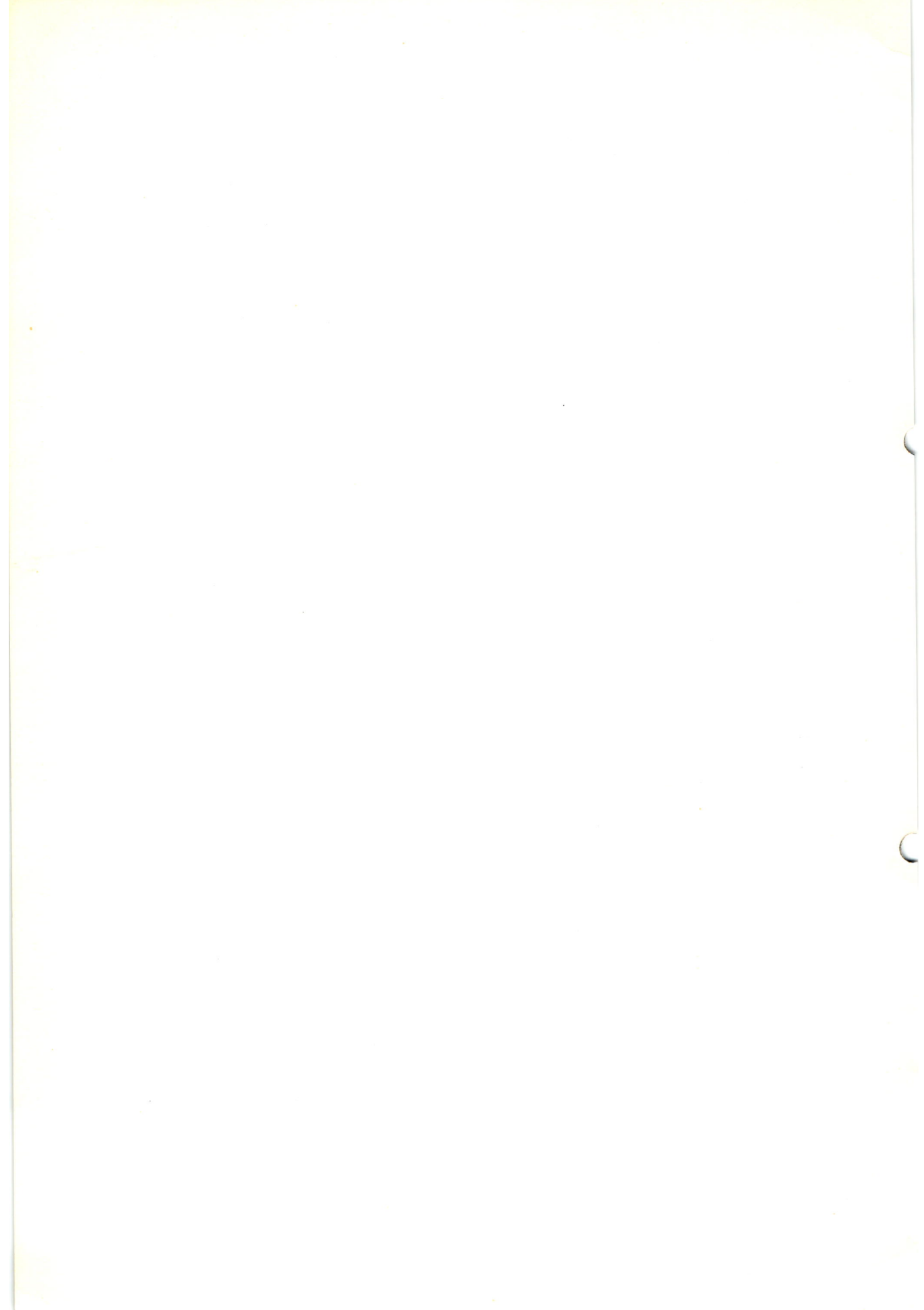
通商産業省銀座東分室内

電話 (542) 2744(代)

中央試験所 340

埼玉県草加市稲荷町1804

電話 (0489) 24-1991(代)





所 感

使用者の立場から見たJIS

中 邨 嘉 幸

JIS原案の審議に使用者の立場から参加する機会が度々あったのでその経験したこと。業務上の必要から品質証明を公的機関より直接あるいは建設業者を通じて受けた場合に感じたことの一部をのべたい。

設計において建物の材料を選定するにあたっては、その使用される部分、目的によってそれらに必要な性能を持っている材料である必要がある。この際一般に特殊なものでないかぎりJISの建築部門における規格品が採用される。

すなわち材料の指定は標準仕様書では該当品目についてそれぞれの規格番号が示される。特殊なもの、又は特にメーカー名、商品名をあげる必要のあるものは特記仕様に表示される。

最近テレビの情報処理についての番組で、情報の処理における電気計算機やシステムにおける系統図の中で或る機能断面を持つセクションなどをそれらの仕事の流れとして考えるとき、それらの内部構造はそれぞれの機能を完全にはたしていると考えられる。従ってこの場合内部機構、組成などは暗箱として考えられるのだと言う放送をきいた。

丁度上記の仕様書と言うシステムを考えると、規格で指示している事項はあたかもこの暗箱に相当するのではないか、一般に設計者、請負者なども同様な考えになっている様である。最近の技術の進歩、発展はめざましく、建材も多種多様であり各材料の性能について検討する時間を持ち合せない。従ってJIS規格についても上記の様な考え方で差支えないし将来の進み方としての必然性を認める。

たまたまある暗箱の一部をのぞく機会があり、感ずる所があったのでそれらの一部をのべさせていただく。

第一の点は原案作成委員会の構成メンバーの立場上の相違による諸々の問題点、特に性能判定基準の取り方についての意見の相違とこれから定められた基準値であろう。

JIS化の目的は品質の改善、生産能率の増進、生産の合理化、取引の公正化、使用消費の合理化にある。構成メンバーがそれぞれそのメリットを得る様になっている。が少なくともJIS化の審議においてはその要求される性

能に合ったものであることが第一義的でなければならないと思う。即ち審議の重点は技術主体でなければならない。専門小委員会では大体この様な状態で進められるが、本委員会になると利益代表的な考えが審議の中心思想となる傾向が多い。使用者側は性能の高いものを要求し、メーカー側は製作技術の問題をとりあげ製造困難を主張する。このばあい採択される標準値が問題となる。

JIS製品と称するものが、それらの製品の品質の保証とならなくて、使用者側ではそれらの中から高性能のものを指定することがしばしばある。せっかくのJIS化が使用者を満足させない例も多い。

第二の点は公的試験結果の信頼性である。

JISにおける性能基準値はそれぞれの材料についての既往のデータや新たに別途実施して確認した公的試験結果によって確認される。従ってそれらの試験は公正で適確である必要がある。私が関係してきたJIS案における実験は民間、公的機関それぞれ同一項目について行なった。試験の結果は後者が前者よりしばしば間違っていると思われるものを示していた。問題は公的機関だけで品質証明を受ける様な場合、折角メーカーが製作したものが、試験の結果不幸にして不合格となることである。公的機関のものが常100%に正確でなければならないとは要求しないが、少くとも疑問のありそうな結果が予測されるものについては立会を認めるなどの官民一体の協力的姿勢がのぞましい。

以上二点は特に私の経験から感じた最も大きい審議における影の部分と考えられる面であるが。

JIS審議の過程においてそれぞれの立場から技術的検討を重ねることは大いに私達の立場において学ばなければならない点が多かったことをつけ加えておきたい。

JIS化の目的についてはさきにあげた通りであり。

将来JIS製品による品質の保証が得られ、仕様書の中でJIS規格品が完全な暗箱として我々の期待を充分満足してくれるであろうが、現在の所まだ時々この暗箱内部をのぞいて見る必要がある。又特にJIS建築部門では性能のきめ方その他数々の箱の中の整備が必要と痛感する。

<筆者：株式会社 日建設研究室次長>

I 試験報告

ガラスリブの曲げ強度試験

この欄で掲載する報告書は依頼者の了解を得たものである。

試験成績書第2389号（依試第2271号）

1. 試験の目的

硝子コンサルタント株式会社から提出された「ガラスリブ」の曲げ強度試験を行なう。

2. 試験の内容

DIN 52305「安全ガラス曲げ試験方法」に準じてガラスリブの曲げ強度試験を行なった。

3. 試験体

依頼者から提出された試験体の名称、種類、寸法、仕上および数量をつぎに示す。

名称：ガラスリブ P15

種類：磨板ガラス（普通・透明）DuPlex

寸法：6300×300×15mm

端部仕上：#240 ベルトシーミング（ドア仕上げ）

数量：5枚

4. 試験方法

DIN 52303—1957「安全ガラス曲げ試験方法」に準じて曲げ強度試験を行なった。

図—1に示すように試験体の面が鉛直になるようにしてスパン6mで支持し、5等分点4点荷重の方法により200kg/mmの割合で載荷し、最大荷重、スパン中央のたわみ、スパン中央のひずみ（圧縮側・引張側共）などを測定した。

試験機は、油圧式10tパネル試験機を使用し、たわみおよびひずみの側定にはダイヤルゲージ（精度0.01mm）およびフォイル・ゲージ（検長8mm）をそれぞれ使用した。

曲げ強度は自重を考慮せずつぎの式によって求めた。

$$f_B = \frac{M}{Z}$$

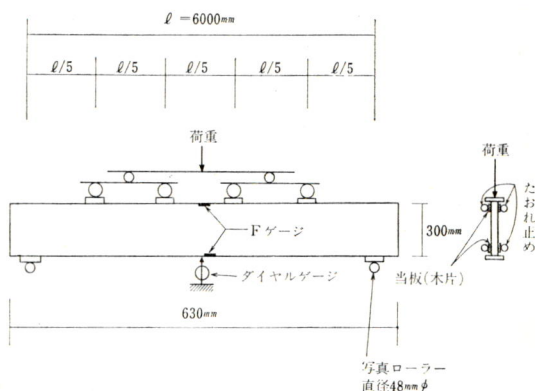
ここに f_B = 曲げ強度 (kg/cm²)

$$M = \text{最大曲げモーメント} = \frac{3}{20} Pl \text{ (kg-cm)}$$

Z = 断面係数 = 225cm³

P = 全荷重 (kg)

l = スパン = 600cm



図—1 曲げ試験方法

5. 試験結果

試験結果を表—1、図—2および図—3に示す。

表—1 曲げ強度試験結果

試験体		最大荷重	最大荷重	曲げ強度
名称	断面係数 番号	(kg)	モーメント (kg-cm)	(kg-cm ²)
ガラスリブ P15	1	840	75500	336
	2	865	77600	345
	3	760	68400	304
	4	920	82600	367
	5	960	86300	383
	(平均)	869	—	347

昭和44年10月3日、4日

6. 試験の担当者・期間および場所

担当者 中央試験所・藤井 正一

無機材料試験課長 久志 和巳

実施者 大和久 孝・石川 忠広

上園 正義・佐藤 哲夫

期間 昭和44年10月18日～昭和45年6月3日

場所 中央試験所

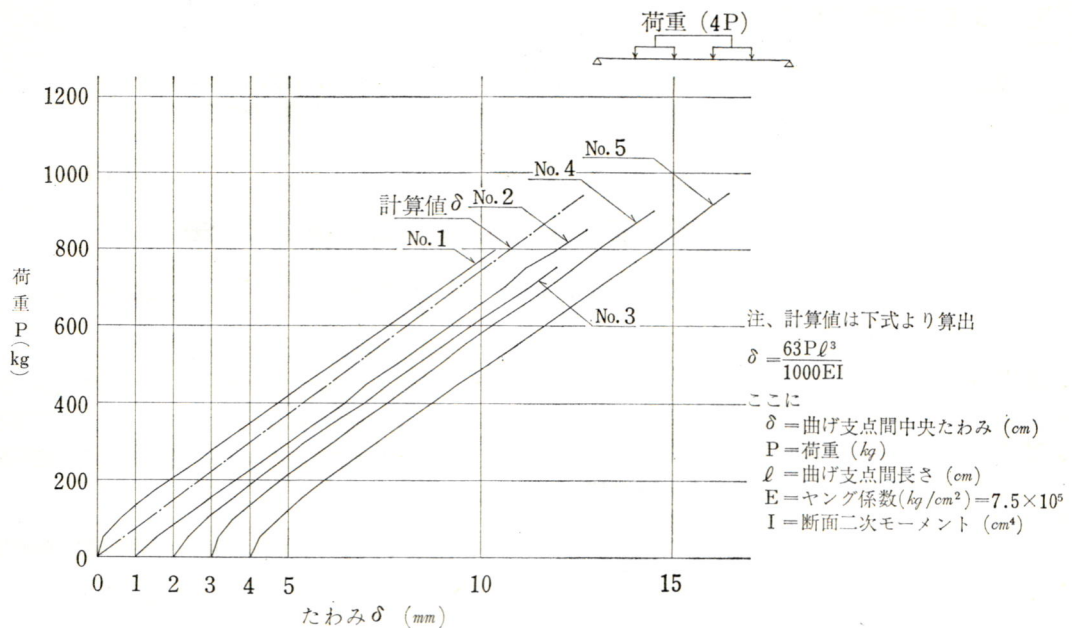
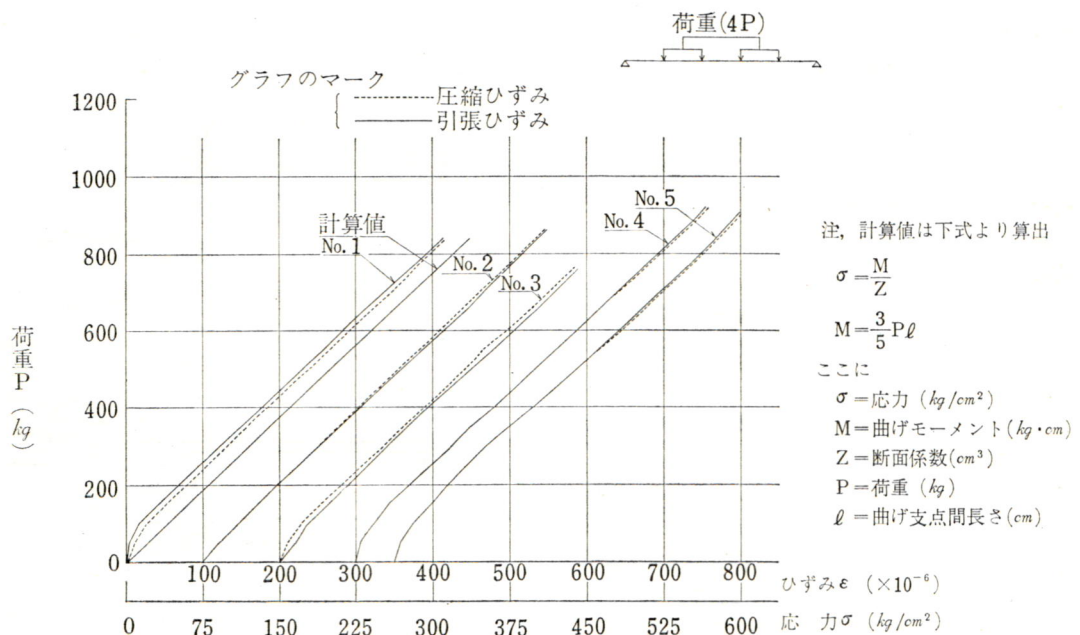


図-2 たわみ測定結果



注 ガラスのヤング率 = $7.5 \times 10^5 \text{ kg/cm}^2$

図-3 ひずみ測定結果

II J I S 原案の紹介

下記原案は昭和44年度工業技術院より、(財)建材試験センターに委託され、作成答申した内容である。
内容について御意見がありましたら波多野委員長またはセンター事務局にお申し出下さい。

日 本 工 業 規 格 (案)

J I S

丁 番 の 繰 返 し 開 閉 試 験 方 法

Performance Tests of Hinges

A〇〇〇〇—〇〇〇〇

1. 適用範囲 この繰返し開閉試験方法は、一般のとびら用丁番の繰返し開閉試験に適用する。

2. 試験の種類 試験の種類は、耐久試験とし、とびらの繰返し使用における丁番の耐摩耗強度を試験するものとする。

3. 試験の方法

3・1 開閉試験装置 図1に示すような構造で電力、油圧、水圧など適宜の動力を用いて開閉する試験とびらを、供試丁番を用いて柱に固定し、これに開閉回数を計るべき回数計を備えたものとする。
装置は、次の条件に適合しなければならない。

3・1・1 試験とびら

幅900mm×高さ2,000mm

重量 約40kg

3・1・2 とびらの開閉速度

毎分約15回(開き閉じるをもって1回とする)

3・1・3 とびらの開閉角度

約 70°

3・1・4 作 動 点

作動点は、とびら下端より約 900mm、とびら先端より約70mmの位置とする。

3・1・5 そ の 他

とびらの開閉は、円滑であり、運転中に装置ががたついてはいけなない。

3・2 供試丁番の取付け 供試丁番2個を、試験とびらに取付け、上部供試丁番の上縁をとびらの上端から、約125mmの位置に、下部供試丁番の下縁をとびらの下縁から約250mmの位置におく。

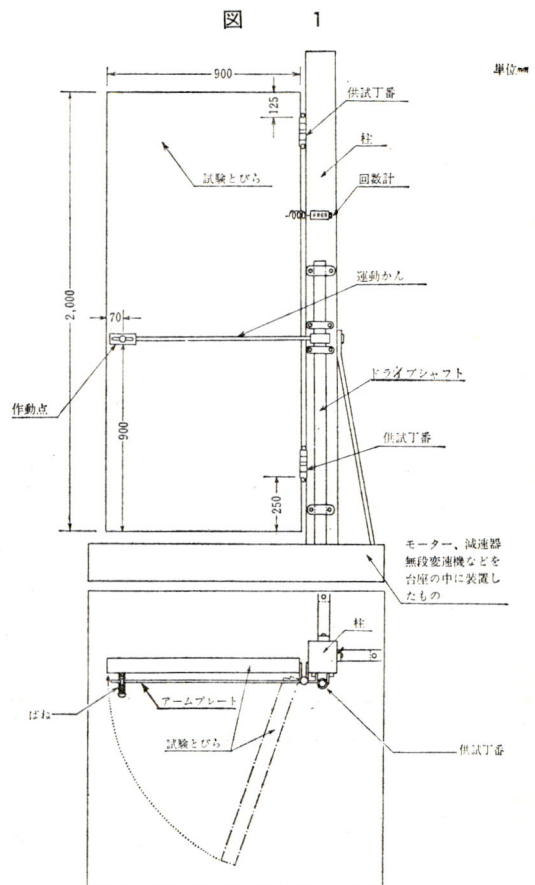
上下供試丁番を取付ける場合、両軸心線が同一鉛直線上にあるごとくし、とびらの開閉抵抗は、0°～90°のどの位置においても1.5kg・m以下とする。

3・3 摩耗度の測定方法 試験機に供試丁番を取付け、24時間放置したる後、上部供試丁番の最上部の非荷重部について、そのすきまをシックネスゲージ

を用いて測定する。

測定は、供試丁番の両羽根が閉じた位置において、軸の外側中央部において行なう、この際測定点の上下の軸筒を通じるマークをつけ、測定箇所を一定にする。

4. 結果の表示 試験の結果は、開閉回数と摩耗量とを対比させて表または線グラフにより表わす。



5. 試験の限度

5・1 普通試験の限度 開閉回数20回万, 摩耗量

1.0mm を限度とし, 開閉回数20万回以下において,
1.0mm を越えて摩耗した場合は, 試験を打切る。

5・2 長期試験 必要に応じて, 20万回以上の繰返し開閉試験を行うことができる。

ただし, 1.0mm 以上の摩耗量の試験は行なわない。

(参考) 説明

上記原案に「解説」をつけることになるが, その素案を福井委員を中心にして作成したものを「説明」として登載した。

まえがき 建築金物のうち, 数多く使用される丁番については, 従来, 形状・寸法・材質を主として標準化されていたが, 実用上最も重要な繰返し耐久性の試験方法を確立することによって耐久性標準化を実現し, 丁番の品質向上・生産使用の合理化を計るため, 本規格を制定したものである。

規格についての考え方

1. 適用範囲 ぎばし付丁番だけでなく, 広く一般のとびら用丁番について, その繰返し開閉試験に適用する。ただし, 丁番の軸筒が2個より成っている丁番については, 摩耗量をシクネスゲージを用いて測定することができないから, この試験方法をそのまま適用することはできない。

2. 試験の種類 耐久試験の内, とびらの開閉使用による軸筒の耐摩耗強度を試験の対象とした。

丁番について考えられる強度には, 両羽根を引っぱって軸筒の破壊強度を測定してその丁番の強度(耐久性)とすることも考えられるが, (1)この種の破壊強度はとびらが風にあふられて, 激しく開くという事例的な場合のみに必要な強度であること。(2)JIS規格に定められた丁番の板厚であれば, 従来の経験から, その破壊強度は出入口とびら用として充分であること, および(3)とびらの繰返し開閉における摩耗強度を知れば軸筒の破壊強度を改めて試験する必要はないと考えられること, の3つの理由により, 摩耗強度のみを試験の対象とすることとした。

3. 試験方法

3・1 開閉試験装置 扉の実際の使用状態になるべく近似した装置とすることにより, 丁番の摩耗状態を正しく再現しうること为目标とし, メーカーが現に使用している装置を参考として構造を定めた。

3・2 とびらの開閉強度および角度 扉の開閉速度を

毎分約15回と定め, 開閉角度を約70°と定めたのは, 人がとびらを開けて普通に出入りする速度および角度を実測して定めたものである。また, 開閉速度を毎分「約15回」と約をつけたのは, 試験装置の設計, 製作を容易にするため, 1分間1回以上の増減を認めた主旨ではない。

3・3 作動点の位置 作動点は普通のとびらにおける「とびら錠の握り玉の位置」を数字で示したものである。試験機のアームととびらの作動点とはバネ・ボールジョイント等を介して結合し, アーム運動の死点通過時のショックを軽減するようにする。

3・4 供試丁番の取付位置 ぎばし付丁番の取付位置は当該業界の習慣により色々異なるがここには最も標準的とされている取付位置寸法を採用し, 実際使用の場合に最も近いようにした。また, 試験の結果を早期に求めよう, 供試丁番の数を2個とし, 3個を避けた。

3・5 供試丁番の取付方法 一枚の試験用とびらに, 寸法の異なる各種供試丁番を自由に取付け得るよう, 試験機の柱およびとびらの丁番取付位置に, 夫々厚さ約3mm程度の鋼板をあらかじめ固定し, この鋼板に各寸法の供試丁番の取付穴位置に応じた多数の穴を穿ておいて, この穴に雌ねじをたて, 供試丁番をマシンスクリューでこの鋼板に固着すると便利である。

4. 試験の限度 開閉回数20万回, 摩耗量1.0mmをもって試験の限度とした。その理由は, (1)20万回は一般住宅出入口の10年間の開閉回数に相当し, (2)丁番が1.0mm吊り下るととびら錠のデッドボルトが受座に入りにくくなり初めるからである。

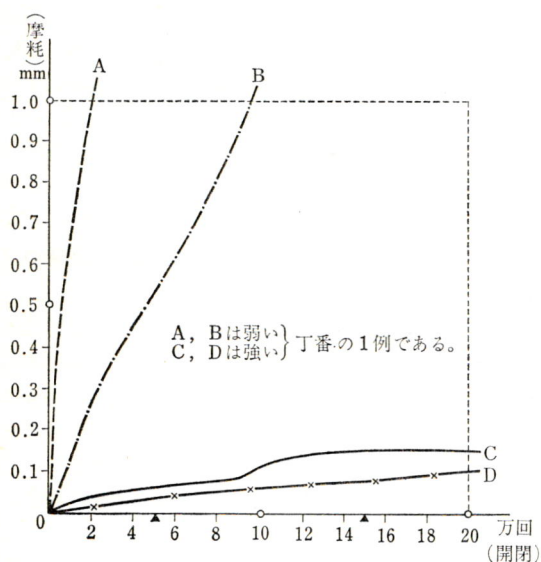
ボールベアリング入り丁番のごとく摩耗強度の大きい丁番については20万回以上の繰返し試験をする必要があるので, 長期試験についても規定した。

5. 試験の実施 供試丁番の強度により, 測定時間の間隔を伸縮して正確な摩耗曲線を得よう努めねばならない。

一般に摩耗曲線は, 初め急角度に上昇し, 次いで角度が小さくなる。ゆえに, 初めの2~3万回開閉まではなるべく測定回数を増すのがよい。しんちゅう製丁番のごとく弱い丁番では3万回開閉以下で摩耗量が1.0mmを超えることがあり, 一日3~5回の測定が必要であるが, 反対に強い丁番では一日一回の測定で充分である。測定結果を線グラフによって表示した1例は付図のとおりである。

丁番の軸筒接合部の摩耗は, 水平かつ均等に生じるものではないので測定箇所および測定時における上下両軸筒の状態を一定にしておかないと正確な摩耗量が計れない。軸筒の上下を通じた線を引いて測定点と測定時の上下の軸の関係位置を一定にするのはそのためである。

付 図



本案の作成に当たった委員は次の通りである。

氏 名	所 属 (順序不同)
波 多 野 一 郎	(委員長) 千葉大学工学部
坂 田 種 男	同 上
金 子 勇 次 郎	建設省住宅局建築指導課
市 橋 勝	通商産業省化学工業局窯業建材課
田 村 尹 行	工業技術院標準部材料規格課
石 田 晁 生	日本電信電話公社建築局
藤 井 正 伸	大成建設株式会社技術研究所
和 田 直 行	株式会社 横河工務所
田 村 高 人	社団法人 日本サッシ協会
村 田 佐 多 雄	東京建具協同組合
太 田 茂	日本建築金物卸商組合連合会
牛 谷 四 郎	渋谷金属産業株式会社
田 村 竜 三	日本建築金物標準規格協会
内 山 鉄 男	合資会社 堀商店
福 井 亀 之 助	協同金属工業株式会社
望 月 光 夫	永和工業株式会社
西 村 末 吉	西村蝶番工業株式会社
下 村 幸 明	株式会社 下村金属製作所
柏 瀬 季 雄	ハッピー金属工業株式会社
西 田 朝 夫	日本建築金物工業組合
宰 務 義 正	(事務局)(財)建材試験センター

残暑お見舞申し上げます

昭和 45 年度

財団法人 建材試験センター

理事長 笹 森 巽

Ⅲ 試験手数料の一部改訂

当センターが受託する試験の手数料については、経常的な試験を除き、その都度両者間で内容の打合せを行ない見積りして参りましたが、最近において規格、基準、仕様書等の判定或は改正があり、一方経済情勢も変わって参りましたので、今回従来の実績を基に内容を分析検討を行ない、つぎのとおり扱いを分類し、一部試験手数料を改訂し、来る8月1日より実施することと致しましたのでご了承願います。(下表A. B. C)

A 日本工業規格(JIS)など、規格、基準、仕様書等に従って定められるもの

B 試験機によって定められるもの

C 試験材料によって定められるもの

D 特殊な試験

E 現場工事に伴う試験(現場材料試験)…別途掲載

なお、これ等の試験でも特に両者間でその内容を打合せの上進める試験については別途見積り(例上記D)となります。

A. JIS規格およびその他の規格別手数料

A-1 JIS規格(防耐火関係を除く)

No.	JIS	名 称	項 目	手 数 料	備 考
1	A1404	建築用セメント防水剤の試験方法	凝結試験, 安定性試験, 強さ試験, 吸水試験, 透水試験	60,000	
2	A4706	鋼製およびアルミニウム合金製サッシ(引違いおよび片引き)	強さ, 気密性, 水密性	120,000	試験機寸法2m×2m使用の場合
3	A5001	道路用碎石	単粒度碎石およびクラッシュヤラン(粒度, 比重, 吸水, すりへり減量, 塑性指数)	28,000	単粒度碎石は6号について C.B.R.(参考試験)一式 54,000
			スクリーニングス(粒度, 塑性指数)	20,500	
			粒度調整碎石(粒度, 比重, 吸水, すりへり減量, 塑性指数)	28,000	
4	A5002	構造用軽量コンクリート骨材	強熱減量, 無水硫酸, 塩化物, 酸化カルシウム, 有機不純物, 安定性, 粘土塊, コンクリートとしての圧縮強度および単位容積重量	83,000	コンクリート調査は, 1調査
5	A5003	石 材	見掛比重, 吸水, 圧縮強さ	18,000	
6	A5005	コンクリート用碎石	粒形判定実績率, 粒度, 比重, 吸水量, 安定性, すりへり減量	42,000	
7	A5006	割ぐり石	見掛比重, 吸水, 圧縮強さ	18,000	
8	A5207	衛生陶器	吸水, インキ試験, オートクレーブ	22,000	
9	A5209	陶磁器質タイル	凍結融解試験, 曲げ, 摩耗, 寸法, 外観, 吸水, オートクレーブ(ひび割れ)	60,000	
10	A5210	セラミックブロック	寸法, そり又は横ひずみ, 吸水, 急冷ひび割れ, 圧縮	42,000	
11	A5212	ガラスブロック	外観, 圧縮, 急冷, 内部ひずみ	30,000	
12	A5403	石綿スレート	曲げ, 衝撃, 含水率および吸水率, 透水	30,000	
13	A5404	木毛セメント板	曲げ(たわみ), 難燃2級または3級	55,000	
14	A5410	石綿セメント板	曲げ(たわみ), 衝撃, 吸水, 含水率, 透水	30,000	
15	A5413	石綿セメントパーライト板	曲げ, 含水率, かさ比重	22,000	
16	A5413	バルブセメント板	曲げ, 含水率, かさ比重, 吸水率, 衝撃, 難燃2級	62,000	
17	A5701	ガラス繊維強化ポリエステル波板	曲げ, 衝撃, 難燃性	60,000	
18	A5703	内装用プラスチック化粧ボード類	外観, 直角度, そり, もどしやすさ, 曲げ, 衝撃, 乾湿くり返し変形, 耐熱性, 耐薬品性(耐酸, 耐アルカリ, 耐トルエン, 耐アセトン, 耐インキ, 耐BHC), 引抜き強度, 難燃性2級又は3級	105,000	
19	A5704	ガラス繊維強化ポリエステル浴そう	厚さ, ひび割れ, じん性, 耐煮沸性, 吸水, 引張, 表面硬度, 沸水時の変形, 衝撃, 耐塩酸性	90,000	
20	A5705	床用ビニルタイル	寸法, 直角度, 長さ変化, へこみ, 残留へこみ, たわみ, そり, 加熱減量, 褪色性, 耐薬品性, すべり, 耐熱性	108,000	JIS申請に伴う試験 40,000
21	A5751	建築用油性コーキング	収縮率, 保油性, スランプ, 付着性, 硬化率, きれつ, 耐アルカリ性	52,000	一般用
				60,000	夏 用
				62,000	冬 用
22	A5752	金属性建具用ガラスパテ	加熱減量, 作業性, 軟度, スランプ, 硬化性, きれつ, 引張付着力	45,000	一般用
				54,000	冬 用
23	A5753	木製建具用ガラスパテ	加熱減量, 作業性, きれつ, 耐候性	53,000	
24	A5754	建築用ポリサルファイドシーリング材	可使時間, タックフリー, スランプ, 汚染性, かたさ, 引張接着強さ, はく離接着強さ, 引張復元性	101,000	
25	A5755	建築用シリコーンシーリング材	上 記 に 同 じ	101,000	

No.	J I S	名 称	項 目	手 数 料	備 考
26	A 5 9 0 5	軟質繊維板	比重, 含水率, 曲げ強さ, 吸水量, 熱伝導率, 吸湿性, 難燃性	8 3, 0 0 0	
27	A 5 9 0 6	半硬質繊維板	比重, 含水率, 曲げ強さ, 吸湿率, 難燃性	6 6, 0 0 0	
28	A 5 9 0 7	硬質繊維板	比重, 含水率, 曲げ強さ, 吸湿性, 難燃性	6 6, 0 0 0	
29	A 5 9 0 8	パーティクルボード	比重, 含水率, 曲げ強さ, はく離抵抗, 木ねじの保持力, 難燃性	7 8, 0 0 0	
30	A 5 9 0 9	パーティクルボード化粧板	比重, 含水率, 曲げ強さ, はく離抵抗, 木ねじの保持力, 難燃性	7 8, 0 0 0	
31	A 6 0 0 5	アスファルトフェルト	1巻の重量, 長さ, 幅, 単位重量, 原紙に対するアスファルトの浸透率, 引張強さ, 折り曲げ, アスファルトの浸透状況, 加熱減量	5 0, 0 0 0	
32	A 6 0 0 6	アスファルトルーフィング	単位重量, 原紙に対するアスファルトの浸透率, 被覆物の単位面積当りの重量, 被覆物の灰分, 引張強さ, 折り曲げ, アスファルト浸透状況, 耐熱	5 5, 0 0 0	
33	A 6 0 0 7	砂付ルーフィング	1巻の重量, 長さ, 幅, 単位重量, 原紙に対するアスファルトの浸透率, 引張強さ, 折り曲げ, 耐熱, 被覆物の単位面積当りの重量, アスファルトの浸透状況	5 5, 0 0 0	
34	A 6 0 0 7	合成高分子ルーフィング	引張強さおよび伸び[無処理(-20°C, 20°C, 60°C), 加熱後(20°C)], アルカリ浸せき後(20°C)], 引張強さ, 加熱収縮, 伸び時の劣化, ビンホール	1 4 8, 0 0 0	
35	A 6 0 0 9	基布その他を積層した合成高分子ルーフィング	引張強さおよび伸び[無処理(-20°C, 20°C, 60°C), 加熱後(20°C)], 引張強さ[無処理(-20°C, 20°C, 60°C), 加熱後(20°C)], 加熱収縮, 伸び時の劣化, ビンホール	1 3 9, 0 0 0	
36	A 6 2 0 1	フライアッシュ	湿分, シリカ, 強熱減量, 比重, 粉末度, 単位水重比, 圧縮強度比	1 8, 0 0 0	
37	A 6 3 0 1	吸音用孔あきせっこうボード	寸法, 曲げ, せっこうとせっこうボード用紙との接着, 難燃性, 吸音特性	8 1, 0 0 0	
38	A 6 3 0 2	吸音用孔あき石綿セメント板	寸法, 曲げ, 含水率, 吸音特性	4 8, 0 0 0	
39	A 6 3 0 3	ロックウール吸音材	長さ, 幅, 厚さ, かさ比重, 曲げ強さ, 吸音率	4 8, 0 0 0	
40	A 6 3 0 4	吸音用軟質繊維板	厚さ, 幅, 長さ, 直角度, 含水率, 吸音特性, 難燃性	8 1, 0 0 0	
41	A 6 3 0 5	吸音用あなあきアルミニウムパネル	厚さ, 幅, 長さ, 吸音特性	4 2, 0 0 0	
41	A 4 3 0 6	吸音用グラスウールボード	吸音特性, 繊維の太さ, 長さ, 幅, 厚さ, かさ比重, 厚さ1cm当たりの単位面積流れ抵抗	7 2, 0 0 0	
43	A 6 9 0 1	せっこうボード	含水率, 曲げ, せっこうとせっこうボード用原紙の接着, 難燃(1級, 2級, 3級)	7 9, 0 0 0 6 9, 0 0 0	難燃1級の場合 難燃2, 3級の場合
44	A 6 9 0 2	左官用消石灰	粉末度, 粘度(標準軟度, 粘度), 安定性(蒸気, 硬度)	5 3, 0 0 0	
45	A 6 9 0 3	ドロマイトプラスター	粉末度, 粘度(標準軟度, 粘度), 安定性(蒸気, 硬度)	5 3, 0 0 0	
46	A 6 9 0 4	せっこうプラスター	粉末度, 凝結時間(標準軟度, 凝結時間, 保水率), 曲げ強さ, きれつ硬度	7 1, 0 0 0	
47	A 6 9 0 6	せっこうラスボード	曲げ, せっこうとせっこうボード用厚紙との接着	2 2, 0 0 0	
48	A 8 6 5 2	鋼製型わくパネル	寸法, 曲げ	3 4, 0 0 0	4 体
49	A 8 9 5 1	鋼管足場	緊結金具(すべり, 変形), わく組足場(鉛直荷重, 水平荷重, 等)	2 4, 0 0 0	
50	A 8 9 5 2	建築工事用シート	引張, 強さおよび伸び, はとめの強さ, 防炎性	2 2, 0 0 0	
51	A 9 5 0 2	石綿保温材	寸法, ひもの外径, かさ比重, 熱伝導率, 強熱減量	4 2, 0 0 0	
52	A 9 5 0 3	けいそう土保温材	繊維の含有率, 最大吸水率, 含水率, かさ比重, 熱伝導率, 曲げ強さ	5 2, 0 0 0	
53	A 9 5 0 4	岩綿保温材および鉱さい綿保温材	繊維の太さ, 粒子の含有率, 寸法, かさ比重, 曲げ強さ, 熱伝導率	5 4, 0 0 0	
54	A 9 5 0 5	ガラス綿保温材	繊維の太さ, 寸法, かさ比重, 熱伝導率	4 2, 0 0 0	
55	A 9 5 0 6	塩基性炭酸マグネシウム保温材	密度, 最大吸水率, 含水率, 熱伝導率, 硫酸, 曲げ強さ	4 8, 0 0 0	
56	A 9 5 0 7	炭化コルク板	密度, 熱伝導率, 曲げ, 煮沸	4 2, 0 0 0	
57	A 9 5 0 8	牛毛フェルト	かさ比重, 圧縮率, 含水率, 植物性繊維およびきょう雑物混入率, 引張強さ, 熱伝導率	4 9, 0 0 0	
58	A 9 5 1 0	けい酸カルシウム保温材	密度, 熱伝導率, 曲げ強さ, 線収縮率	6 6, 0 0 0	
59	A 9 5 1 1	フォームポリスチレン保温材	かさ比重, 熱伝導率, 曲げ強さ, 耐圧, 燃焼, 吸水	6 2, 0 0 0	
60	A 9 5 1 2	パーライト保温材	かさ比重, 熱伝導率, 曲げ強さ, 線収縮率	6 6, 0 0 0	
61	A 9 5 1 3	硬質フォームラバー保温材	密度, 熱伝導率, 曲げ強さ, 耐圧, 吸水率	5 8, 0 0 0	
62	K 2 2 0 7	石油アスファルト	針入度, 軟化点, 伸度, 蒸発量, 蒸発後の針入度, 四塩化炭素可溶分, 引火点	3 5, 0 0 0 ~ 4 2, 0 0 0	
63	K 5 4 0 0	塗料一般試験方法	乾燥時間, 鉛筆引っかき, 耐屈曲性, 促進耐熱, 塗膜加熱, 耐水性, 耐煮沸水性, 耐アルカリ性, 耐酸性, 耐塩水性, 耐揮発油性, 塩水噴霧	1 2 0, 0 0 0 ~ 1 4 0, 0 0 0	ウエザーメーター (200hour)
64	K 6 9 0 2	熱硬化性樹脂化粧板試験方法	厚さ, 外観, 耐摩耗性, 耐熱水性, 耐熱性, 耐シガレット性, 耐汚染性, 耐光性, 耐煮沸性, 寸法変化率, 破断タワミ, 曲げ強さおよび弾性率, 化粧面の光沢度	1 0 5, 0 0 0 ~ 1 3 0, 0 0 0	ウエザーメーター (200hour)

No.	J I S	名 称	項 目	手 数 料	備 考
65	K 6 9 1 1	熱硬化性プラスチック一般試験方法	曲げ強さ, 引張強さ, 圧縮強さ, シェルビー衝撃強さ, アイゾット衝撃強さ, 耐熱性, 耐燃性, 熱膨張, 吸水率, 煮沸吸水率, 比重, 耐アセトン, 耐煮沸性, 耐硫酸性, 耐薬品性	90,000 ~ 110,000	
66	R 3 2 0 6	強化ガラス	ソリ, 破碎, 衝撃, 投影	25,000	
67	R 3 2 0 9	複層ガラス	外観, 露点	20,000	
68	R 5 2 0 1	セメントの物理試験方法	比重, 粉末度, 凝結, 安定性, 強さ	15,000	
69	S 1 0 2 1	学校用家具(普通教室用)	寸法, 荷重, 繰返し衝撃(いす5,000回, 机2,000回)塗膜	112,200	J I S申請用(3組分)
70	S 1 0 3 1	鋼製事務用机	寸法, 荷重(垂直, 水平), 引出し力, 引出し繰返し, 塗膜	47,500	
71	S 1 0 3 2	鋼製事務用いす	荷重, 塗膜	30,000	
72	S 1 0 3 3	鋼製事務用ファイリングキャビネット	荷重, 引出し繰返し, 塗膜	47,500	
73	S 1 0 3 4	鋼製事務用書庫	荷重, 塗膜	31,300	
74	S 1 0 3 5	鋼製事務用ロッカー	荷重, 塗膜	31,300	
75	S 1 0 3 6	鋼製事務用カードキャビネット	荷重, 引出し繰返し, 塗膜	47,500	
76	S 1 0 3 7	耐火庫	荷重, 引出し繰返し, 転倒, 塗膜, 耐火(1時間標準加熱)	132,500	耐火試験料金は別表参照
77	S 1 0 3 9	鋼製書架	たな板およびたな受荷重, 全荷重, 水平荷重, 塗膜	50,000	

A-2 防・耐火関係規格

No.	J I S	名 称	項 目	加 熱 時 間	枚 数	手 数 料 (円)	備 考
1	A 1 3 0 1	建築物の木造部分の防火試験方法		30分	2	80,000	
2	A 1 3 1 1	建築用防火戸の防火試験方法	屋 外 用 耐 火	30分 1 時 間 2 時 間	2 2 2	90,000 100,000 120,000	
3	A 1 3 0 4	建築構造部分の耐火試験方法	壁 柱 床 梁 注水, 衝撃	30分 1 時 間 2 時 間 3 時 間 1 時 間 2 時 間 3 時 間 1 時 間 2 時 間 3 時 間	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	100,000 120,000 140,000 180,000 110,000 120,000 130,000 100,000 110,000 120,000 130,000 140,000	
4	A 1 3 2 1 又は建設省告示	建築物の内装材料および工法の難燃性試験方法	難 燃 準 不 燃	6 分 1 0 分 1 0 分	1種類	40,000 40,000 50,000	表面試験 表面試験 表面試験 基材試験
5	S 1 0 3 7	耐火庫	標 準 急 加 熱 衝 撃 落 下	1 時 間 2 時 間 3 時 間 1, 2, 3 時 間 1 時 間 2 時 間 3 時 間	1 1 1 1 1 1 1	77,500 93,700 107,800 79,700 95,800 114,500 133,200	急加熱併用の場合 +13,000

A-3 公団規格および J I S 規格案

No.	名 称	項 目	手 数 料 (円)
1	化粧用セメント吹付材	①加水後の吹付可能時間, ②初期耐水性, ③吸水, ④湿潤時の耐摩耗性, ⑤退色, ⑥硬度, ⑦水硬性, ⑧付着	J I S 規格案 ①~⑧ 82,500 公団標準 ①~⑧ 107,000
2	混和材 (モルタル混和材)	①ワーカビリティ, ②凝結, ③空気量, ④圧縮強度, ⑤曲げ強度, ⑥付着強度, ⑦収縮率, ⑧保水性, ⑨透水, ⑩吸水	公団標準①~⑩ 176,500 ①~⑩ 212,000
3	コンクリート混和材	①単位セメント量, ②スランプ, ③空気量, ④減水率, ⑤凝結時間, ⑥ブリージング比, ⑦圧縮強度, ⑧曲げ強度, ⑨凍結融解に対する抵抗性低下率, ⑩長さ変化 (乾燥収縮)	公団標準 380,000
4	人工軽量骨材	骨材 ①強熱減量, ②塩化物, ③有機不純物, ④粘土塊, ⑤無水硫酸, ⑥粒度, ⑦粒大, ⑧飽和比, ⑨吸水量, ⑩実積率, ⑪浮率, ⑫安定性 コンクリート (4 調合) ①生コン比重, ②ブリージング率, ③空気量, ④スランプ, ⑤ワーカビリティ, ⑥気乾比重, ⑦4 週圧縮強度, ⑧4 週引張強度, ⑨長さ変化, ⑩浸入量, ⑪付着強度	公団標準 506,000
5	合成樹脂系床用タイル	①長さ変化量, ②へこみ, ③残留へこみ, ④加熱減量, ⑤すべり, ⑥吸水量, ⑦摩耗量, ⑧接着材によるそり, ⑨接着強さ	公団標準 45,000
6	P.C. ジョイント用テープ状シール材	①圧縮変形性, ②圧縮復元性, ③原形保持性, ④水密性, ⑤汚染性	公団標準 58,000
7	ほうろう浴そう	①ほうろう層の厚さ, ②ピンホール検出, ③はくり, ひび割れ, ④耐熱, ⑤砂袋衝撃, ⑥付着性, ⑦耐酸, ⑧耐アルカリ, ⑨まもう	J I S 規格(案) 46,000

B. 試験機別手数料

No.	試験機名	試験項目	条 件	手 数 料 (円)	備 考
1	動風圧試験機	強度, 水密, 気密	寸法 1. 2,000×2,000mm 2. 3,000×3,500mm 3. 6,500×6,000mm 4. 繰返し疲労試験等特別の試験の場合	120,000 180,000 336,000 別途見積	養成, 取付け 1 日につき 10,000円加算 〃 〃 15,000 〃 〃 〃 25,000 〃
2	熱貫流率測定装置	熱貫流率 結露 (アルミサッシ)	寸法 2,000×2,000mm~3,500×3,500mm厚さ250mm まで 最初の 1 温度条件 同一試験体で 3 〃 N 体の試験体について t 温度条件 アルミサッシの結露試験	100,000 50,000 N[100,000+ 50,000(t-1)] 100,000	1 体の試験体で t 温度条件 100,000+50,000(t-1)円 肉眼観察
2	インストロン万能試験機	引張, 曲げ, 圧縮	20°Cにおける引張, 曲げ, 圧縮 高温時(25°C~300°C)引張, 曲げ 低温時(15°C~75°C)引張, 曲げ 弾性率を計るとき	1,500 1,800 3,500	1 本につき 〃 〃 1 本につき 500円加算
4	ウェザーメーター	耐候性試験	200時間照射 30枚まで 色差, 光沢度測定	50,000 200	照射のみ スプレー条件は注文通り 1 枚 1 回につき
5	塩水噴霧試験機	J I S Z 2 3 7 1 による塩水噴霧試験	100時間につき 20枚まで 色差, 光沢度測定	24,000 200	1 枚 1 回につき
6	熱伝導率試験装置	J I S A 1 4 1 2 による	200×200×(10~23)mm 平均温度 10°C~80°C 〃 〃 100°C~350°C 1 種類 3 温度条件 〃 -20°C~5°C	30,000 33,000 39,000	
※7	摩耗試験機	摩耗試験	J I S Z 2141 にも, A S T M 法 (オルゼン型) 1000 回転 寸法 50×70mm, 落砂摩耗 50×50mm	2,500	1 枚につき
8	透湿率	A S T M 法による	300×300×30mm A S T M 法による 1 条件	30,000 30,000+25,000 (N-1)	1 種 2 枚 2 種以上 (N は試験体の種類数)
9	熱変形試験機	そり, 膨張, はくり, 寸法安定性	照射 5 サイクル 2 m×1 m, 2 m×1 m 以上のもの又は重量物	55,000 60,000~100,000	1 枚につき ただし重量物のセット 1 枚につき 費は別途加算
※10	面内せん断試験機	面内せん断試験 相関変位	900×1,800mm 単板 (重量 50kg 未満) 2,400×3,000mm までの複合材 (重量 100kg 未満) 〃 〃 までの複合材 (重量 100kg 以上)	30,000~45,000 46,000~70,000 60,000~80,000	1 枚につき ただし測定点数で決める 〃 〃 〃 〃 ただし重量物の加工セット費試験体処分費別途加算
※11	曲げ試験機 (1 t パネル, 10 t 〃, 50 t 構造物)	①単純曲げ 曲げせん断 ②圧縮試験	J I S A 1 4 0 8 によるボート類の曲げ試験 900×1,800mm で単板の曲げ, たわみのみ 50kg 未満 (150~900)×1,800mm で複合材の曲げ, たわみ変形 〃 (900~1,500)×(1,800~2,400)mm 〃 〃 100kg 未満 (900~1,500)×(2,400~4,500)mm 〃 〃 100kg 以上 (900~2,400)×(1,800~3,000)mm 単板複合材の曲げせん断 (150~900)×1,800mm の単板の圧縮 (900~1,800)×(1,800~3,000)mm の単板複合板の圧縮	12,000 5,000~10,000 10,000~20,000 15,000~30,000 30,000~60,000 15,000~40,000 10,000~15,000 15,000~30,000	3 枚 1 組 1 枚につき 1 枚につき 変位の測定点は 5 点以下 1 枚につき 〃 5 点以下 1 枚につき 〃 5 点以上 変位 3 点増すごとに約 10,000 円加算 1 枚につき 1 枚につき 変位の測定は 5 点以下 1 枚につき 〃

No.	試験機名	試験項目	条 件	手数料(円)	備 考
12	凍結融解試験機	ASTMによるコンクリートの凍結融解	300サイクル(試験体本数29本 100×100×400mm) 3弾性係数測定	180,000 100	1件につき 1本1回につき
13	低温恒温槽又は室	凍結融解試験	15サイクル(-10~20°C 1日1サイクル)	30,000 30,000+10,000(N-1)	1種3ヶまで Nは試験体種類数
※14	衝撃試験機 (重錘 砂袋衝撃試験機 シャルピー インゾット デューボン)	①落錘衝撃試験 ②砂袋衝撃試験 ③シャルピー及びアイゾット衝撃試験 ④デューボン衝撃試験	1kg, 2kg, 3kg, 5kg, 10kg の錘りの自由落下 ASTM-E84による(振子式) 単板 JIS K 6911による 複合材 KMKの地下調整用パテの試験	①JISA5410によるもの 3,000 ②JISA5703によるもの 10,000 ③高さを変える場合 12,000 ④パネル類複合材 15,000 3,000 5,000 1,500 4,500 3,000	3枚1組 9枚1組 12枚1組 1枚当り(10ヶ所位落錘くぼみきれつ) 1回1枚当り(試験体の加工取付費は別途)
※15	硬度試験機 (ロックウエル マルテンス ひっかき硬度 度, スプリ ング式硬さ 試験機 パーコール 硬度計)	ロックウエル硬さ ひっかき硬度 ゴム硬さ パーコール硬さ その他	JIS Z 2245による JISA5703, A6704による JISA6008~9による JISA5764による JIS(案)化粧セメント吹付材	4,500 3,000	1種につき 1種につき
※16	オートクレーブ	貫入試験	JISA5207および5209による	10,000	3種類まで同額
※17	床用すべり抵抗試験機	すべり抵抗	JISA1407による試験	3,000	1種3片
※18	結露試験機	結露試験 露点試験	カップ法(三角錐) 二室法 ① 50×60cm板 ② 200×200cm板 JISR3209による	20,000 45,000 100,000 15,000	1種 2ヶ 1種 2枚 1種 1体 1種 3点
※19	B型粘度計	粘度測定	20~200,000CPで, 室温~150°C	4,500~6,000	1種
※20	分析機器 (PHメータ ー 示差熱分析 器 ガスクロマ トグラフ)	PHの測定 示差熱分析及び熱分解による重量変化 ガス分析	ガラス電極による 常温~1,000°C	1,000 5,000 2,000	1種1条件 1種 1成分

※印は、別に報告書代金加算

C. 試験材料別料金表

材料名	試験項目	試験内容	手数料(円)	備 考
セメントモルタル	JISR5021による	前記A項No.68を参照	15,000	
	JISA1404による	前記A項No.1を参照	60,000	
	JISA1125による	モルタルの長さ変化試験方法(コンパレータ法)	24,000 15,000	材令28日まで 成型から測定 材令28日まで 成型品について
	接着力試験	建研式接着力試験 50cm×45cmコンクリート板にモルタルを接着 接着力試験のみ	25,000 1,500	材令28日まで 1種コンクリート板およびモルタル施工を含む 1片
コンクリート	調合試験(普通骨材)	使用骨材試験, セメント試験 ためし練り2回, 空気重, スランプ, 単位容積重量, 圧縮強度(7日, 28日)	35,000	
	調合試験(人工軽量骨材)	上記に同じ	40,000	
	鉄筋の付着力試験 (ボンド試験)	ASTM法 従筋6本横筋6本 引抜試験のみ	53,500 (28,500) 2,500	1種類1調合 材令(28日) ()は他の試験項目を併用したとき 成型品1本につき
	JISA1125による	コンクリートの長さ変化試験	55,000 20,000 (25,000)	10×10×40cm 成型材令日測定のみ ()は他の項目と併用の場合
	曲げ強度試験 引張強度試験	JISA1106による(調合を含む) JISA1113による(調合を含む)	38,000 (18,000)	試験体成形(材令28日) ()は他の試験項目を併用するとき
	ブリージング	JISA1123による(調合を含む)	35,000 (15,000)	()は他の試験項目と併用するとき
	プロクター貫入試験	ASTMによる	36,000 (17,000)	()は他の試験項目を併用するとき
	凍結融解試験	前記B項, No.12項参照	180,000 100	300サイクル 1件につき 弾性係数 1体1回

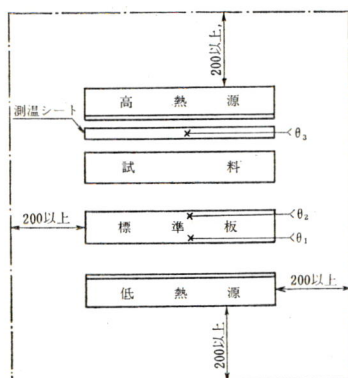
IV 熱伝導率測定用標準板について

建材試験センターでは、JIS A 1412「保温材の熱伝導率測定方法（平板比較法(1968制定)）」の規定にもとづいて、熱伝導率測定用標準板の認定をする必要があり、かねてから「熱伝導率標準板認定委員会（委員長 東北大学名誉教授 坂山四郎）」を設けて、この件に関して検討を重ねてきた。今般、この委員会の決定にしたがった標準板ができ上り、一般の需要に応ぜられる状況になったので、標準板について簡単に紹介する。

JISで決められた標準板

JIS A 1412「保温材の熱伝導率測定方法（平板比較法）」は、各種の材料の熱伝導率を比較法によって測定する方法を規定している。すなわち図1において、

図 1 単位mm



試料と標準板とを重ね合わせ、これをととして高熱源から低熱源に向かって熱を流す。この際試料と標準板の両表面における温度を測定し、次式によって熱伝導率 λ を計算する。

$$\lambda = \lambda_0 \times \frac{\ell}{\ell_0} \times \frac{\theta_2 - \theta_1}{\theta_3 - \theta_2}$$

ここに λ : 試料の平均温度における熱伝導率 (kcal/m, h, deg)

λ_0 : 標準板の平均温度における熱伝導率 (kcal/m, h, deg)

ℓ : 試料の厚さ (m)

ℓ_0 : 標準板の厚さ (m)

$\theta_3 - \theta_2$: 試料の両面温度差 (deg)

$\theta_2 - \theta_1$: 標準板の両面温度差 (deg)

$\frac{\theta_2 + \theta_3}{2}$: 試料の平均温度 (°C)

$\frac{\theta_1 + \theta_2}{2}$: 標準板の平均温度 (°C)

この標準板については、JISの3, 2においてつぎ

のように定められている。

3・2 標準板⁽¹⁾は、認定⁽²⁾された標準板を使用する。

注⁽¹⁾ 標準板は、例えばポリカーボネート樹脂板、四ふっ化樹脂板またはこれらに適当な充てん材を混入したものあるいはグラスウールなどの無機質繊維板などをポリカーボネート樹脂、四ふっ化樹脂などでコートしたもの

⁽²⁾ 認定機関は、財団法人建材試験センターとする。

これら標準板には 0.2mm ϕ 以下の熱電対2対が付設され、表面温度が測定できるようになっていること。

建材試験センターでは、前記の熱伝導率標準板認定委員会において十分に検討した結果、差し当り標準板として、珪酸カルシウムに特殊樹脂を含浸させたものを材料とし、図2に示すような形状のものを用いることになった。その熱伝導率については、委員会が指定した建材試験センター、東北大学工学部機械材料研究室、日本アスベスト(株)研究所の3者で測定し、結果が一致することを確認した上で、認定品として発売することとした。

今回発売する標準板の性能およびその使用上の注意はつぎの如くである。

1. 構成

本標準板はJIS A 1412に基づき(財)建材試験センターが認定する標準板で、下記のものから構成されている。

認定書	1
標準板	1
熱電対接続コード	2
熱伝導率検定図表	1
熱起電力換算表	1
取扱説明書	2

2. 規格

2.1 熱伝導率	熱伝導率検定図表参照
2.2 重量	〇〇 gr
2.3 外形寸法	200mm × 200mm × 20mm
2.4 熱電対	C. C 0.2mm ϕ
2.5 熱起電力	熱起電力換算表
2.6 最高加熱温度	110°C
2.7 使用温度範囲	0°C ~ 100°C
2.8 熱電対リード線	C. C 0.2mm ϕ , 3m
2.9 出力端子	K型ターミナル

3. 構造

図2 参照

4. 使用法

- 4.1 熱伝導率の測定は、JIS A 1412によって行なう。
- 4.2 温度測定は、JIS Z 8704「温度の電気的測定方法」(1968改正)に従うこと。
- 4.3 熱起電力の測定は、必ず電位差計を使用すること。

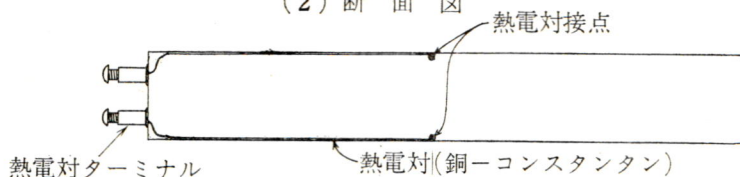
5. 使用上の注意事項

- 5.1 標準板は、乾燥、冷暗所に保存すること。
- 5.2 振動、衝撃をさけること。
- 5.3 標準板の表面は比較的やわらかであるから、固い物でおさえないこと。

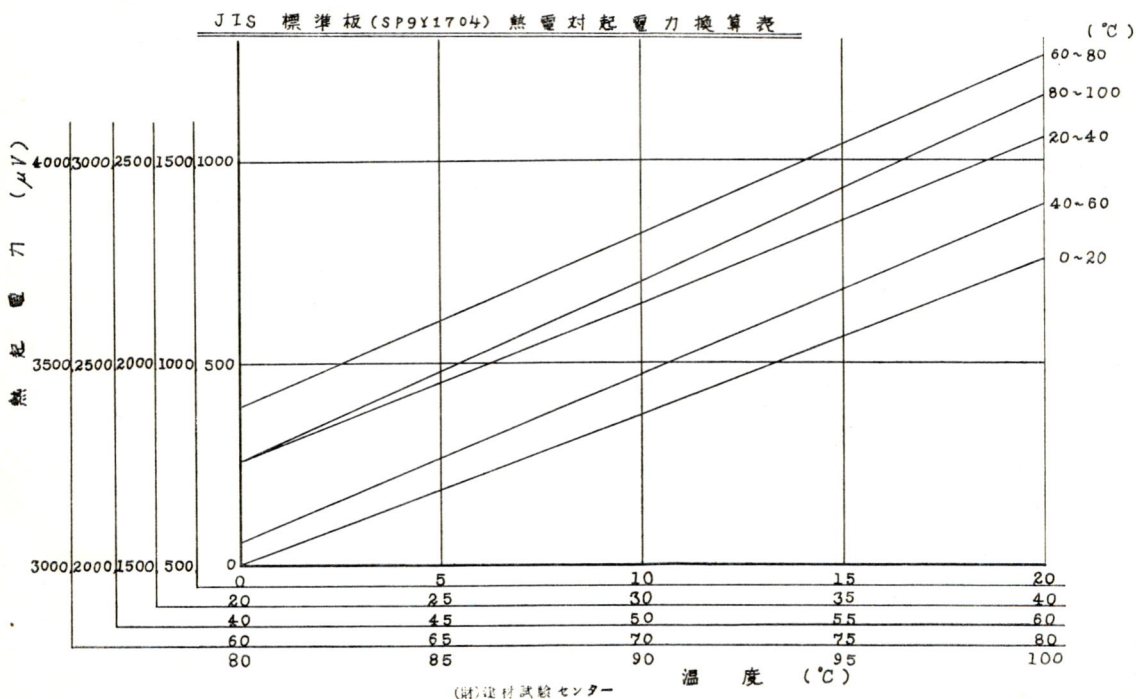
(1) 外 観 図



(2) 断 面 図



なお、熱伝導率検定図表および熱起電力換算表の例を次に示す。



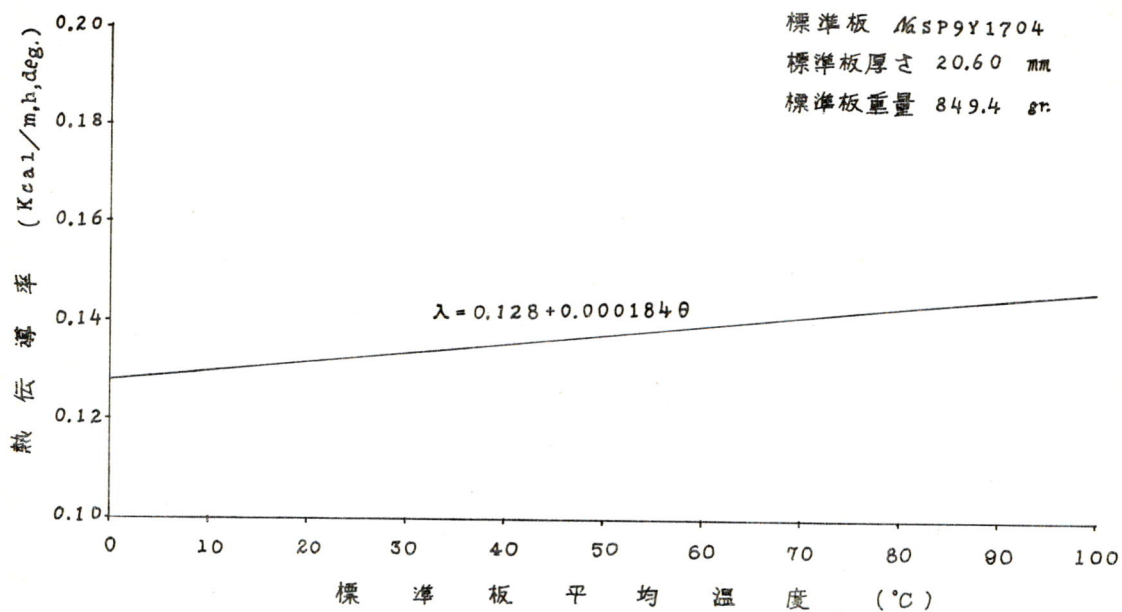
JIS A 1412 認定標準板熱伝導率検定図表

昭和45年7月5日

標準板 №SP9Y1704

標準板厚さ 20.60 mm

標準板重量 849.4 gr



JIS A 1412「保温材の熱伝導率測定方法（平板比較法）」にもとづく標準板

御希望の向に頒布いたします。

お問い合わせは右記にお願い申し上げます。

東京都中央区銀座六丁目15番1号

通商産業省銀座東分室内 ☎ 104

財団法人 建材試験センター

電話 03 (542) 2744(代)

V 業務月例報告

1. 昭和45年6月受託状況

(1) 受託

(イ) 6月度の工事用材料を除いた受託件数は99件（依試第2887号～第2985号）であった。その内容を表—1に示す。

表—1 6月度依頼試験受託状況

材 料 区 分	依頼試験を受けた材料—藤名称	部 門 別 の 試 験 項 目								受付件数
		力 学 一 般	水・湿 気	火	熱	光 空 気	化 学	音		
1	木材・繊維質材	化粧合板、木毛セメント加工板、難燃ベニヤ、石膏ボードパルプ合成材、パルプセメント・			防火材料耐火				5	
2	石材・造石	吹付岩綿、・・石綿板、道路用碎石、花崗岩	すりへり、比重、圧縮強度、摩耗、曲げ強度	吸水	耐火防火材料	凍結融解		安定性	5	
3	モルタルコンクリート	セメント、コンクリートコンクリート混和剤	曲げ強度、圧縮強度、単位セメント量、スランプ、空気量、凝結時間、長さ変化、ブリージング比	減水率		凍結融解			2	
4	セメントコンクリート製品	軽量コンクリート、化粧石綿スレート板			耐火防火材料				4	
5	左官材料	セメント吹付、化粧石膏ボード	附着、衝撃		防火材料耐火				3	
6	ガラス及びガラス製品	複層ガラス、水ガラス発泡体、化粧けい酸カルシウム板、ガラスウール	はく離、比重、曲げ強度、圧縮強度	吸水、露点	防火材料	熱伝導率			4	
7	鉄鋼材料	デツキプレート、スタッドボルト、鉄鋼合材、らせ階段、メタルフォーム	曲げ強度、引張強度、荷重		耐火防火材料				6	
8	非鉄金属材料	アルミ板、アルミ合板			防火材料				3	
9	家具	折りたたみいす、学校用具、金庫、耐火庫、美術宝庫	衝撃落下、荷重、くり返し衝撃、寸法、外観		耐火			塗膜 遮音	3 4	
10	建具	スチールサッシ、アルミニウムサッシ	強度	水密性	防火		気密性		1 1	
11	粘土製品	磁器タイル、セラミツク	ひび割れ			熱伝導率			2	
12	プラスチック接着材	発泡スチロールス、チロール積層ボード、ポリエステルフィルム、プラスチック杭、ポリエチレンフォーム、粉状瀝青材	比重、寸法変化、重量、曲げ強度、圧縮強度、引張り、引裂	吸水、安全水頭、結露	防火材料燃焼性防火	熱伝導率凍結融解加熱収縮		耐薬品	9	
13	塗料	アクリル系塗料	摩耗				耐候性	塗膜、塩水噴霧	1	
14	皮膜防水材	プラスチック舗装材				凍結融解加熱老化	耐候性オゾン劣化		1	
15	シール材	アクリル系シーリング材	可使時間、タツクフリー、スランプ、かたさ、引張接着強さ、はく離強さ、引張復元性、収縮性				汚染性		1	
16	紙・布・カーテン敷物類	工事用シート	はとめ強さ						1	
17	複合材（パネル）	鉄骨パネル、アルミキャストカーテンウォール、木質系パネル、間仕切パネル	面内剪断耐力、曲げ強度、圧縮強度	水密性	耐火			遮音	7	
部 門 別 件 数			4 9	9	1 8	9	5	5	2	9 9

(ロ) 6月度の工事用材料の受託件数は総数277件でその内訳を表—2に示す。

表—2 6月度工事用材料受付状況（件数）

試験内容	受付場所		合計
	中央試験所	本部（銀座事務所）	
コンクリート・シリンダー圧縮試験	108	39	146
鋼材の引張・曲げ試験	45	70	115
骨材試験	6	1	7
その他	5	4	9
合計	163	114	277

(2) 調査・技術相談

6月度は5件であった。

2. 標準化原案作成業務関係

●建築用構成材（パネル）およびその構造部分の性能試験方法（TMP）

○物理試験部会 第1回特別小委員会 6月2日
透水関係については昭和43年度に作成した案を基礎にして、その後の建材試験センターの研究結果もとり入れて修正原案を作成し、審議した。

第2回特別小委員会 6月16日
熱貫流率測定関係については、昭和43年度に作成した案を基礎とし、その後の建築学会その他の研究結果もとり入れた修正原案を作成審議。

第3回特別小委員会 6月19日
温湿度膨張関係原案の審議

○強度試験部会 第3回委員会

6月24日

強度関係の修正原案の審議

○総合 第1回特別小委員会

6月16日

物理および強度試験部会の統一的原案作成方法につき検討。

第2回本委員会

6月29日

早期完了させる10試験方法を項目別に修正点について、両部会の西(物理)藤井(強度)主査より説明と質疑応答があり、審議の結果一部修正を加え承認、完了。

●熱伝導率測定用標準板

第9回委員会

6月22日

製作完成された標準板について、その測定結果確認。第1号製品を原板とし、比較値を出しておくこと。認定書、様式および仕様書について検討。標準板の製作進行状況確認と購入希望者へ順次販売の事承認された。

3. 各種会合

◇日本住宅公団関係(KMK)

●陶磁器タイル圧着用材料と施工法

第11回部会

6月1日

- (1) 品質試験結果および現場における施工試験結果の中間報告
- (2) 仕様書の検討
モルタルの調査と施工、エキスパンション、ジョイントの施工問題、タイルの裏足、混和剤の使用量などについて討議し、仕様書の改訂を行なった。

●プリント合板 第8回特別小委員会

6月3日

第9回

6月19日

試験結果と試験方法の検討。仕様書(案)の検討。

●総合報告会 第2回

6月11日

「プリント合板」「陶磁器タイル圧着用材料と施工法」「外装モルタルのきれつ対策」「簡易アスファルト防水材料」の4部会からそれぞれ調査研究(仕様書(案)を含む)の報告と質疑応答があった。

VI 事務局だより

受託業務消化状況

当センターが受託する業務のうち最も問題になるのは受託試験の消化実績であって、建材試験センターに試験を依頼しても、なかなか右から左へ処理して貰えないというクレームをしばしば耳にする。当センターとしては、この種のクレームを聞くことは最も辛いことであって、建材業界建設業界にこの種の御迷惑をかけないよう

にとのことで、実は当建材試験センターが設立されたわけであった。然し業界の当センターへの期待が年を追うて大きくなりつつあることは事実であって、そのために受託する件数が飛躍的に増大し、一方設備や人員に或る程度の限界があるわけであるから、消化実績が物理的に悪くなるのは当然であろう。唯私共としてこのような言訳をして糊塗することは絶対に許されぬことであって、試験の実施に当たっている中央試験所長の藤井正一理事をはじめとして各試験担当者は、この種のクレームを解消することに異状な努力を傾け、最近著しく取戻して参ったことを次の通り数字をあげて御報告したい。

イ. 昨年の10月頃までは受付件数と実施件数とが大抵トントンで、特別な理由があるものの外は、受託即試験実施という処理ができた。

ロ. 昨年11月頃から受付件数と試験実施件数との差即ち繰り越しの件数が漸次増大して参り、昭和44年度の下期即ち44年5月から年度末である45年3月末には、この差が117件に及び、受付件数の実に22%にも及んだのである。

ハ. かかる好ましくない欠陥を是正するために、次のような具体的措置を講じた。

(i) 試験要員を差し当り8名増員した。就職戦線の厳しい折柄、新規採用は極めて困難であったが、関係深い諸先生の積極的な御協力によって優秀な大学卒業者の採用がかなったことは、まことに感謝に堪えぬ次第である。

(ii) 試験施設の充実のために整備5カ年計画を樹立し、関係行政官庁の強力な御支援助のもとに必要な資金の確保に最大限の努力を致しているが、一方余り豊かでない自立財源からも若干資金を捻出して小規模な施設の具体的な整備又は補強を行った。ただ受託件数の増加は、施設の項目としての増備のみではなく、同じ試験機能の重複拡充が必要になってきたことを痛感する。

(iii) 試験要員の建設的な意欲が一段と旺盛(おうせい)になり、試験要員それぞれの熟練度も一層充実して参り、必然の結果として、個人の消化度が著しく是正してきた。

これらの成果が顕著にあらわれて、45年3月末における受付件数と消化件数との差である117件が著しく縮小され、45年6月末においては、この差が67件となった。この分でゆけば今年末にはこの持ち越しが完全に払掃されることになる。若し先に述べた施設整備の資金的裏付けが叶えられたならば、今後更に増加するであろう受託件数の消化も格段に円滑になると信ずるのである。

(事務局長 金子 新宗)